

## ◆避難時の注意点

### ●服装

- 木綿製の動きやすいものを着用し夏場でも長袖、長ズボンの着用が望まれます。(けが防止)
- 冬場は必ず暖かい防寒服(ダウンジャケット、ジャンパー、手袋など)を着用しましょう。
- ヘルメット、防災頭巾を着用し、靴は底の厚い平らなもの、はき慣れたものにしましょう。
- 非常持出品等の荷物はリュックサックに入れて、両手が使えるように背負いましょう。

水面下には側溝や障害物などもあり危険。長い棒を杖にして安全確認をしながら歩く。

軍手(手袋)をはめる。

裸足は禁物。運動靴のほうが歩きやすい。

**避難するときの服装**

雨具は傘ではなく雨合羽を着用する。

非常持出品はリュックサックに入れて背負う。



### ●避難方法

避難は原則徒歩で行いましょう。高齢者・障害者など歩行が不自由な方を伴った避難以外は、車での避難はしないようにしましょう。渋滞で緊急車両が通れないといったことが起きてしまいます。



### ●垂直避難・水平避難とは

垂直避難とは、洪水や津波の際に家や避難施設の高所階に上がることをいいます。また地震や火災では上階から地上へ下りることをいいます。

水平避難とは、避難場所・避難所など安全な場所へ避難することをいいます。屋外へ出て避難することが危険な場合は、垂直避難をして安全を確保しましょう。



水平避難



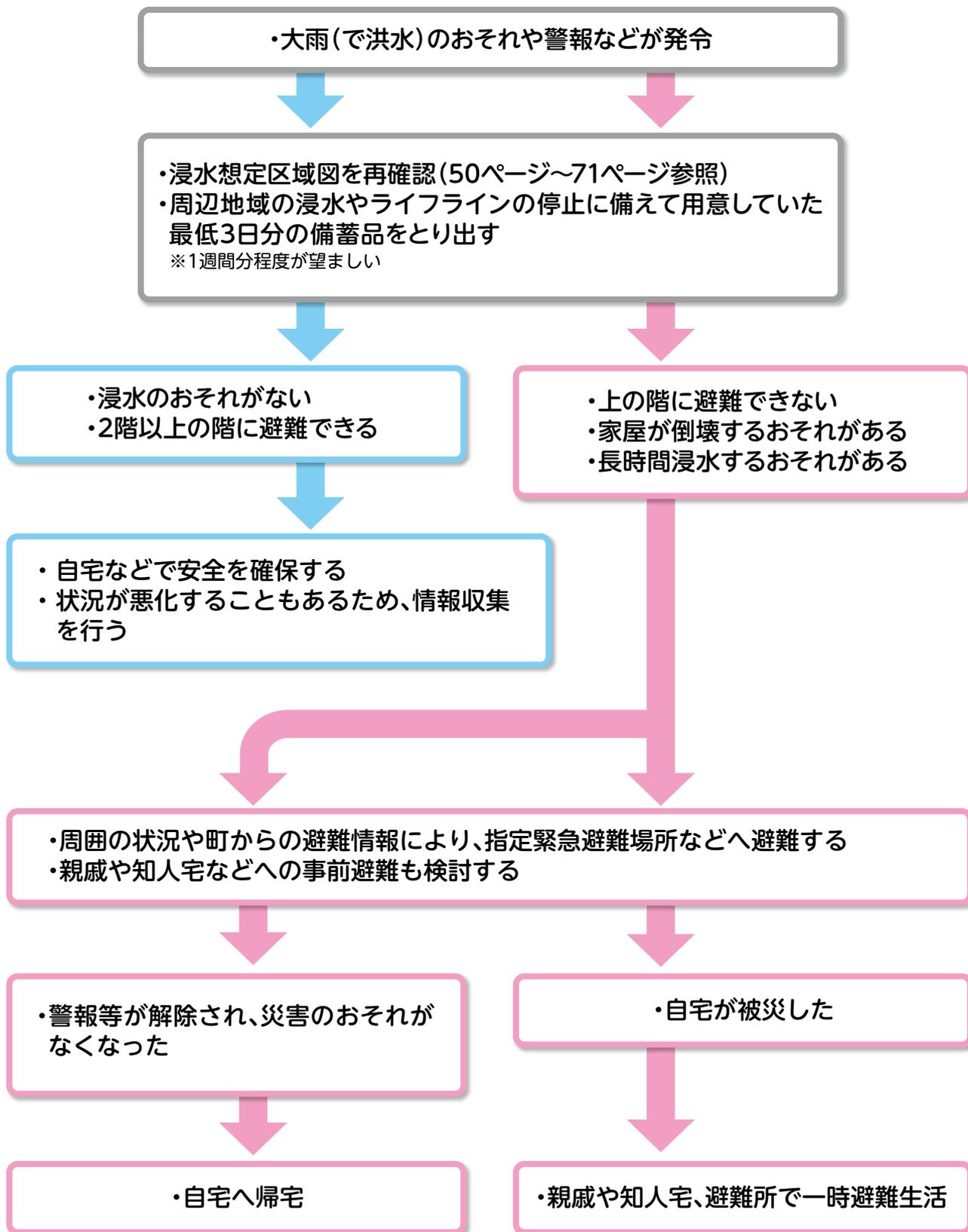
垂直避難



状況に応じて適切な避難行動をとろう。

# 自分で判断しましょう

## ◆避難する際のフローチャート



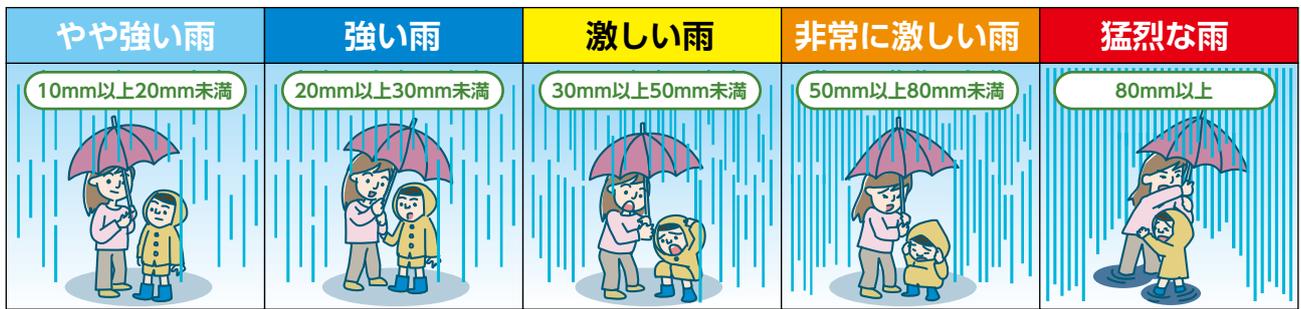
# 雨・風・台風の強さ

## ◆雨・風・台風の強さと雨の降り方・風の吹き方を確認しましょう

気象情報で、「1時間雨量〇mm」「風速〇m」という表現が出てきます。その時の雨・風の強さや降り方・吹き方が具体的にどういったものなのか、確認してみましょう。

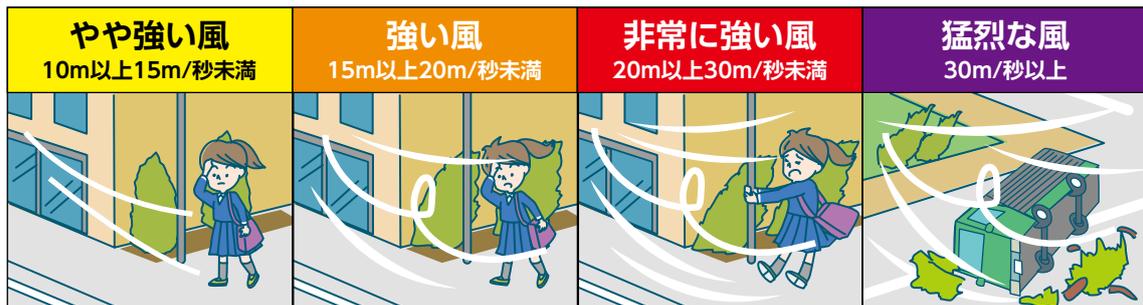
### ○雨の強さと降り方(1時間雨量:mm)

- 10mm以上20mm未満 … ザーザーと降る雨。雨の音で話し声が聞き取りにくい。
- 20mm以上30mm未満 … どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。
- 30mm以上50mm未満 … バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。
- 50mm以上80mm未満 … 滝のように降る。傘は全く役に立たなくなる。
- 80mm以上 … 恐怖を感じる。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。



### ○風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

- 10m以上15m未満 … 風に向かって歩きにくくなる。樹木全体が揺れ始める。
- 15m以上20m未満 … 風に向かって歩くことが困難。電線が鳴り始める。
- 20m以上25m未満 … 何かにつかまっていないと立ってられない。瓦などが飛散するものがある。
- 25m以上30m未満 … 立ってられない。樹木が倒れることがある。
- 30m以上 … 屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。



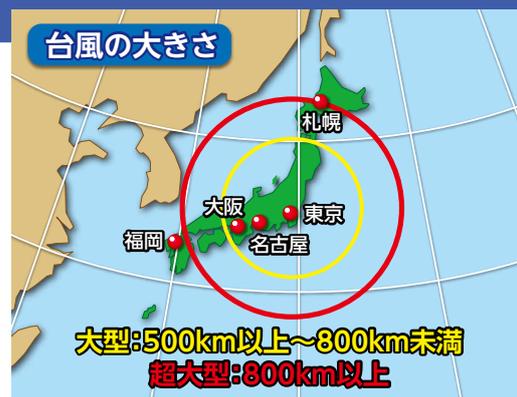
### ○台風の強さと大きさ

#### ・台風の強さ(最大風速:m/秒)

- 33m未満 … 強さの表現なし
- 33m以上44m未満 … 強い
- 44m以上54m未満 … 非常に強い
- 54m以上 … 猛烈な

#### ・台風の大きさ(風速15m/秒以上の半径)

- 500km未満 … 大きさの表現なし
- 500km以上800km未満 … 大型
- 800km以上 … 超大型

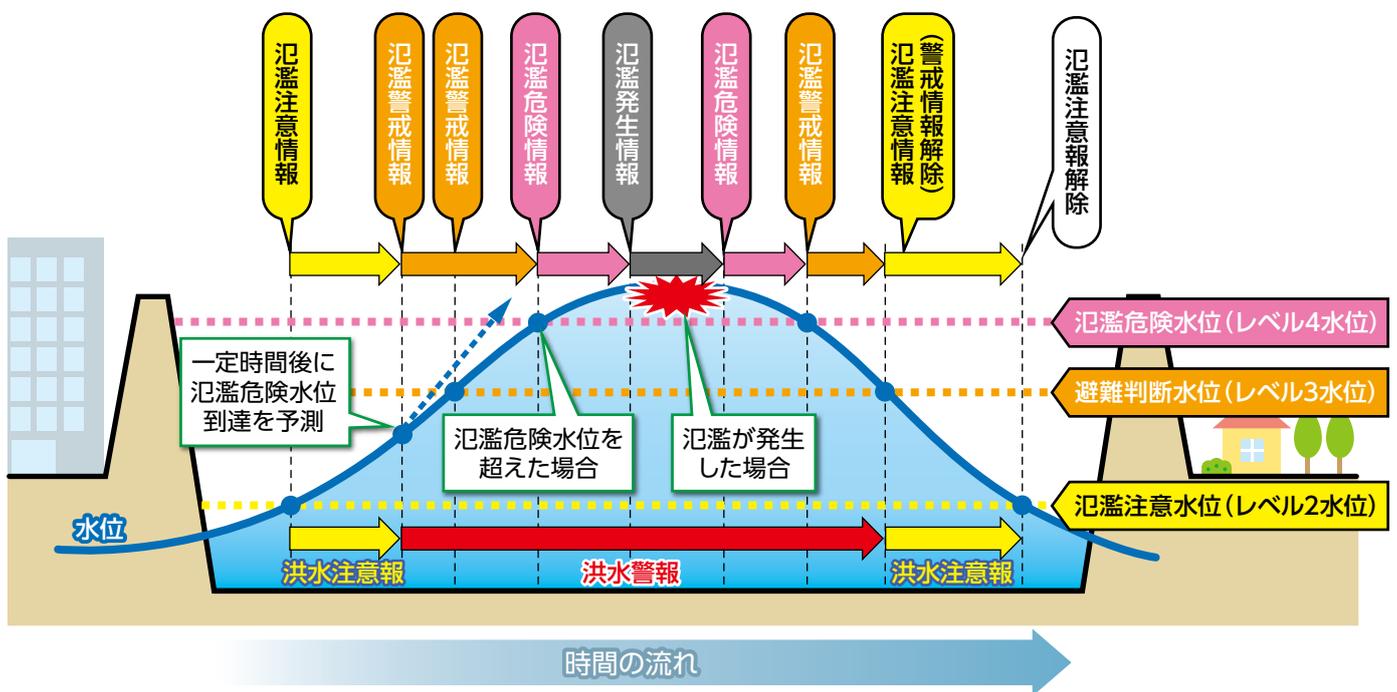


# 河川の水位について

河川の増水や氾濫などに備え、河川の水位情報を入手することも重要なことです。河川の氾濫情報についても知っておきましょう。

## ◆洪水予報の種類

- 氾濫注意情報：氾濫注意水位（警戒レベル2相当）に達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合
- 氾濫警戒情報：一定時間後に避難判断水位（警戒レベル3相当）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位（警戒レベル4相当）に到達が見込まれる場合
- 氾濫危険情報：氾濫危険水位（警戒レベル4相当）に到達した場合
- 氾濫発生情報：氾濫の発生（警戒レベル5相当）



## ◆テレビのデータ放送を使って河川水位を調べましょう

NHKの地上デジタル放送（データ放送）から、防災情報を見ることができ、平時から警報・注意報だけでなく、河川の水位を確認することができます。

- 操作方法**
- ①NHK（3チャンネル）を選択
  - ②テレビリモコンのdボタンを押下
  - ③防災・生活情報を選択・決定

災害時には、避難情報を選択・決定すると、避難に関する情報の発令状況が分かります。開設避難所情報からは、各自治体でどの避難所が開設されているかが分かります。

テレビはdボタンを押すことで、様々な情報を入手することができます。防災情報を収集する手段としてテレビのdボタンを活用するために、日頃からdボタンの操作方法や入手できる情報の確認をしましょう。



注意して見るべき水位観測点  
 木曽川：犬山、笠松  
 庄内川：枇杷島  
 新川：水場川外水位  
 五条川：春日  
 福田川：新居屋

# 風水害の対策

## ◆家の内外の風水害対策

台風や大雨の到来はある程度予測できますが、安易に考えてはいけません。台風や大雨は何度も大きな災害を発生させています。油断せず、日ごろから十分な対策を行いましょう。

### ○屋外

#### ●雨どい

継ぎ目はずれや塗装のはがれ、割れがないか確認。落ち葉や土砂でといが詰まらないように掃除しておく。

#### ●ベランダ・庭先

鉢植えや物干しざおなどは飛ばないように片付けておく。

#### ●雨戸

がたつきやゆるみなどがあれば補修する。

#### ●側溝

側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の排水をしやすくする。

#### ●屋根

瓦のひび、割れ、ずれ、はがれ、トタンのめくれがないかを確認する。

#### ●外壁

壁に亀裂や腐り、浮きはないか、プロパンガスのボンベは固定されているか、などを確認する。

#### ●窓ガラス

強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさいだり、内側に飛散防止のフィルムを貼ったりする。

#### ●ブロック塀

ひび割れや破損箇所は補修する。



### ○屋内

- 避難に備えて、非常持出品を準備する。(P.26参照)
- 気象情報をテレビ・ラジオで確認する。
- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオなどを準備する。
- 断水などに備えて、飲料水などを確保しておく。
- 不要な外出はしない。

- 浸水などのおそれがあるところでは、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を2階以上の高い場所へ移動させる。
- 高齢者や乳幼児、病人などは安全な場所へ早めに避難させる。



### ○その他

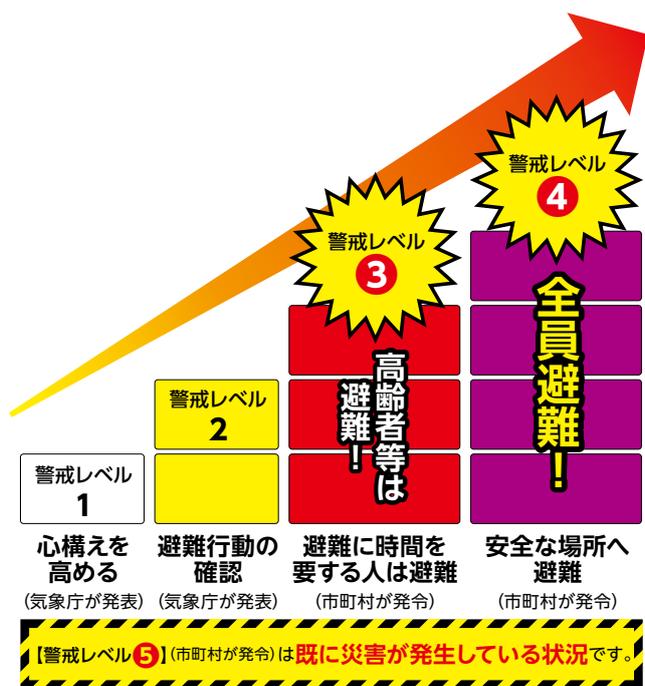
- 地下街・地下室から避難する。
- 河川の近くや低い道を避ける。
- 冠水道路には注意する。

# 警戒レベルとは

## ◆警戒レベルを知っておきましょう

西日本を中心に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨などの災害時、避難・気象・水位に関する情報があふれ、適切な避難行動につながりませんでした。

これを踏まえ、情報の意味を直感的に理解できるよう、防災情報を5段階の警戒レベルにより提供します。



資料：内閣府(防災担当)・消防庁HP

### 警戒レベル

市町村が発令する避難情報等に付される数字で、災害発生のおそれの高まりに応じて住民の方々がとるべき行動と当該行動を住民の方々に促す情報とを関連づけるものです。

### 警戒レベル相当情報

国土交通省、気象庁、都道府県等が発表する防災気象情報に付されるもので、住民の皆さんが主体的に避難行動等を判断するための参考となる状況情報です。



必ず順番どおりに発令されるものではありません。常に備えましょう。

いざというとき避難をするのか、避難しないのか、どこに避難するのか、決めるのは自分自身です。非常時には上記の避難情報だけに頼らず、状況を見て自ら避難行動を取りましょう。

## ◆避難情報の違いを知っておきましょう

自治体が発令する避難情報とその意味を知り、自ら率先して適切な避難行動をとり、周りの人にも避難を呼びかけましょう。

### ●避難準備・高齢者等避難開始【警戒レベル3】

避難に時間を要する人は、支援者と共に安全な場所へ避難してください。その他の人は避難の準備を整えると同時に、以後の防災気象情報、河川水位の情報等に注意し、自発的に避難を始めてください。

### ●避難勧告【警戒レベル4】

指定緊急避難場所等、安全な場所へ避難してください。

### ●避難指示(緊急)【警戒レベル4】

災害が発生するおそれが極めて高い状況等になっており、緊急に避難してください。  
※状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合などに発令されるもので、必ず発令されるものではありません。

### ●災害発生情報【警戒レベル5】

既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとってください。  
※災害が発生した場合に必ず発令されるものではありません。

# 高潮・土砂災害について

## ◆高潮について知っておきましょう

※大治町に該当区域はありません。  
外出先などで災害に遭う(直面する)恐れもあります。

高潮は、台風や猛烈に発達した低気圧が原因で発生し、気圧の低下による吸い上げ効果や同じ風向きで強風が吹き続けることによる吹き寄せ効果により、海面が全体的に上昇する現象です。場合によっては1～2日にわたって海面の高い状態が続くこともあります。

## ○高潮発生の要因と危険な場所

### 【高潮発生の3つの要因】

#### ①気圧低下による海面の吸い上げ

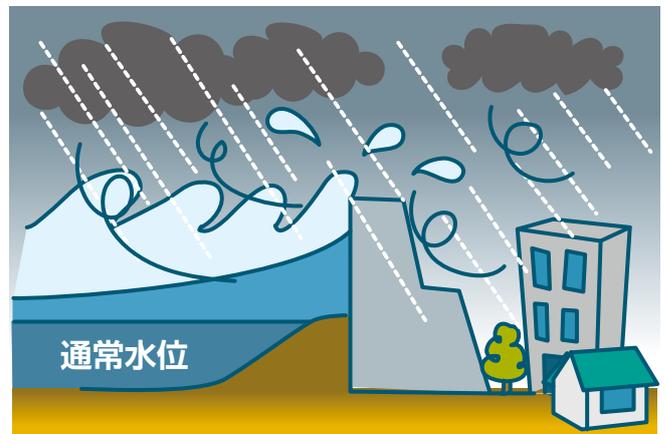
台風や低気圧の中心は周辺より気圧が低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げ、海面が上昇します。

#### ②風による岸への吹き寄せ

台風による強風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

#### ③波浪による海面上昇

大きな波が海岸に向かって絶え間なく押し寄せると、波が沖に戻ることができず、岸に近い場所に多量の海水がたまるようになり、海面が上昇します。波が大きいほど、波浪による海面の上昇も大きくなります。



## ◆土砂災害について知っておきましょう

※大治町に該当区域はありません。  
外出先などで災害に遭う(直面する)恐れもあります。

土砂災害の被害を軽減するには、普段から土砂災害に対する備えが必要です。家族で家のまわりの危険箇所を確認し、災害に備えて避難経路や避難場所について事前に話し合っておきましょう。

## ○2つの土砂災害警戒区域

### ●土砂災害警戒区域とは(イエローゾーン)

#### 土砂災害のおそれがある区域

・指定されると… 災害情報の伝達や避難が早くできるように都道府県と市区町村などにより、警戒避難体制が整備される。

### ●土砂災害特別警戒区域とは(レッドゾーン)

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

・指定されると… ・住宅地分譲、社会福祉施設など、特定の開発行為が許可制になる。  
・居室を有する建築物は、構造の安全性について建築確認が必要になる。  
・著しい損壊が生じるおそれのある建築物に対し、移転などが勧告される。

# 落雷・竜巻について

## ◆雷から身を守りましょう

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、落雷が差し迫っています。次のことを念頭に速やかに屋内など安全な場所へ避難して、雷から身を守りましょう。

### ①安全な場所に移動する

雷は、雷雲の位置次第で、道路、海面、田畑、広場、山岳などところを選ばずに落ちます。グラウンドやゴルフ場、プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く屋内など安全な場所に避難してください。

### ②電柱や鉄塔、樹木の近くなどには近づかない

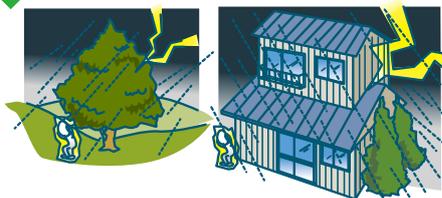
落雷を受けた樹木等のそばに人がいると、その樹木等から人体へ雷が飛び移ることがあります。木の下で雨宿りなどをしていて死傷する事故は、ほとんどがこのことが原因です。

電柱や樹木から4m以上離れるようにしましょう。

### ③安全な場所がない場合はできるだけ身を低く

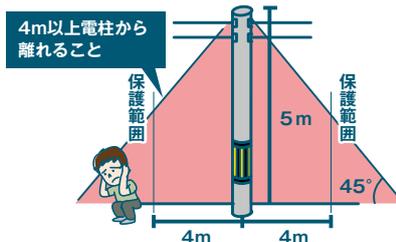
グラウンドや広場など逃げ込む所がない時は、両膝を抱えて指で耳の穴を塞ぎ、頭を下げて、雷雲の通過を待つようにしましょう。

### ✗ 樹木や木造家屋の軒下での雨宿り



- 頭をなるべく低くしてしゃがむ
- 耳をふさぐ
- 両足を閉じてひざは地面につけない
- ※かかとを接地していても構わない

### ○ 電柱などの「保護範囲」内への避難



## ◆竜巻に注意しましょう

竜巻は、発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生する激しい空気のうず巻きです。風速が毎秒70mを超える(住家が倒壊する)ような猛烈な風が吹くことがあり、短時間で狭い範囲に集中的に被害をもたらします。

### ■竜巻が迫ってきたら

#### ○屋内では

- ・窓やカーテンを閉める。 ・雨戸やシャッターを閉める。
- ・家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する。
- ・地下室や建物の最下階に移動する。
- ・低い姿勢を取り、両腕で頭と首を守る。 など

#### ○屋外では

- ・近くの頑丈な建物内に避難する。
- ・車の中、物置や車庫・プレハブの建物は危険。
- ・近くに頑丈な建物がない場合は、水路や溝などくぼんだ場所(急な豪雨に注意)や物陰に身を伏せ、両腕で頭と首を守る。 など



気象庁が発表する「竜巻注意情報」を確認しましょう。